

国民年金 VS 厚生年金

働き方で「未来の数字」はどう動くのか？



TK MAX 金融・経済レポート シミュレーター解説

Website <https://tk-max-site.vercel.app/> ・ X https://x.com/TK_MA55 ・ Email tk_max@ymail.ne.jp

働き方が変われば、年金のルールも変わる。



日本の年金制度は、働き方によって「いくら払い、将来いくらもらえるか」が大きく異なります。自営業と会社員。どちらの生き方が優れているかという「正解」はありません。



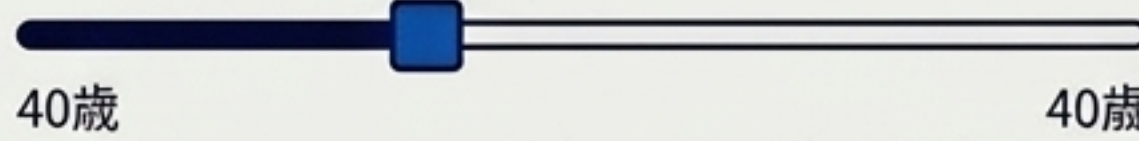
重要なのは、制度の違いを客観的な数字として理解し、自分の現在地を知ることです。

?

結論ではなく、データを「体感」するツール。

年齢

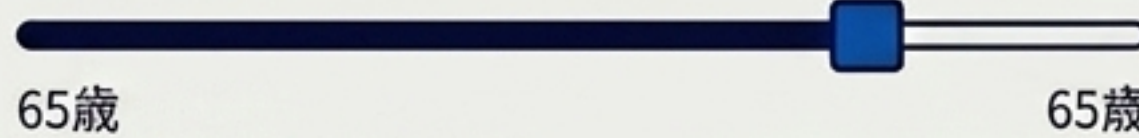
40～40歳



40歳

引退年齢

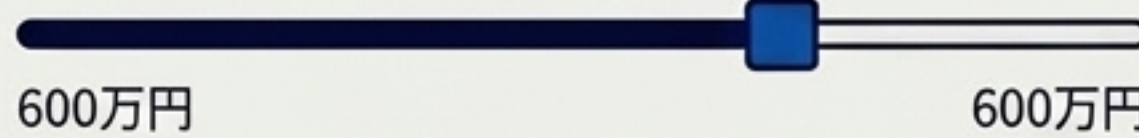
65～75歳



65歳

年収

200～600万



600万円

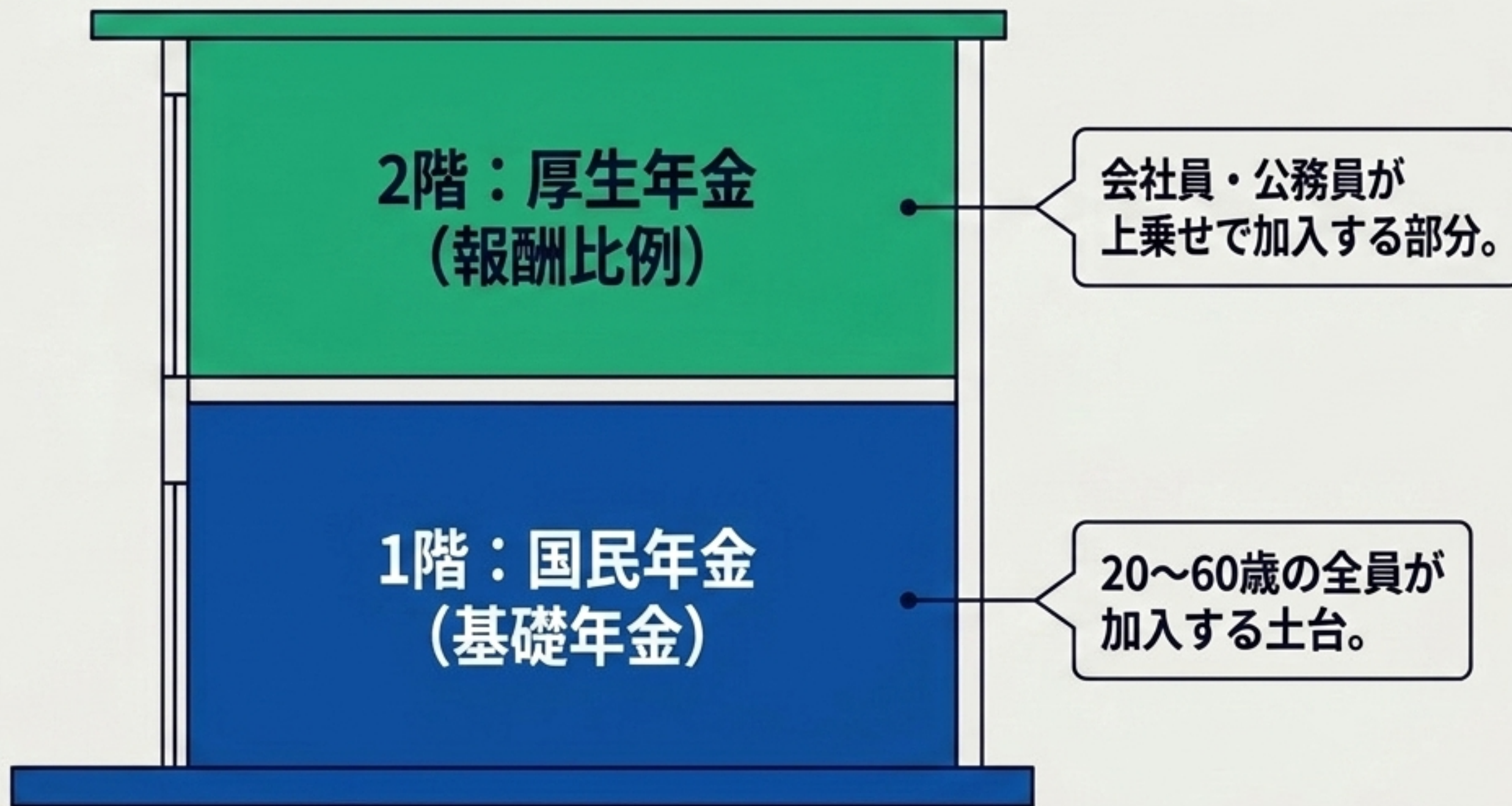
シミュレーション実行

TK MAX 金融・経済レポート

年齢・引退時期・年収の条件を変えると、
将来の数字がどう動くかをワンクリックで
可視化する独立系研究シミュレーター。

公開データという「パズル」をどう解釈
するかは、あなた自身に委ねられます。

日本の公的年金は「2階建て」の構造でできている。



1階部分：全員共通の土台「国民年金」

全員共通の土台 「国民年金」

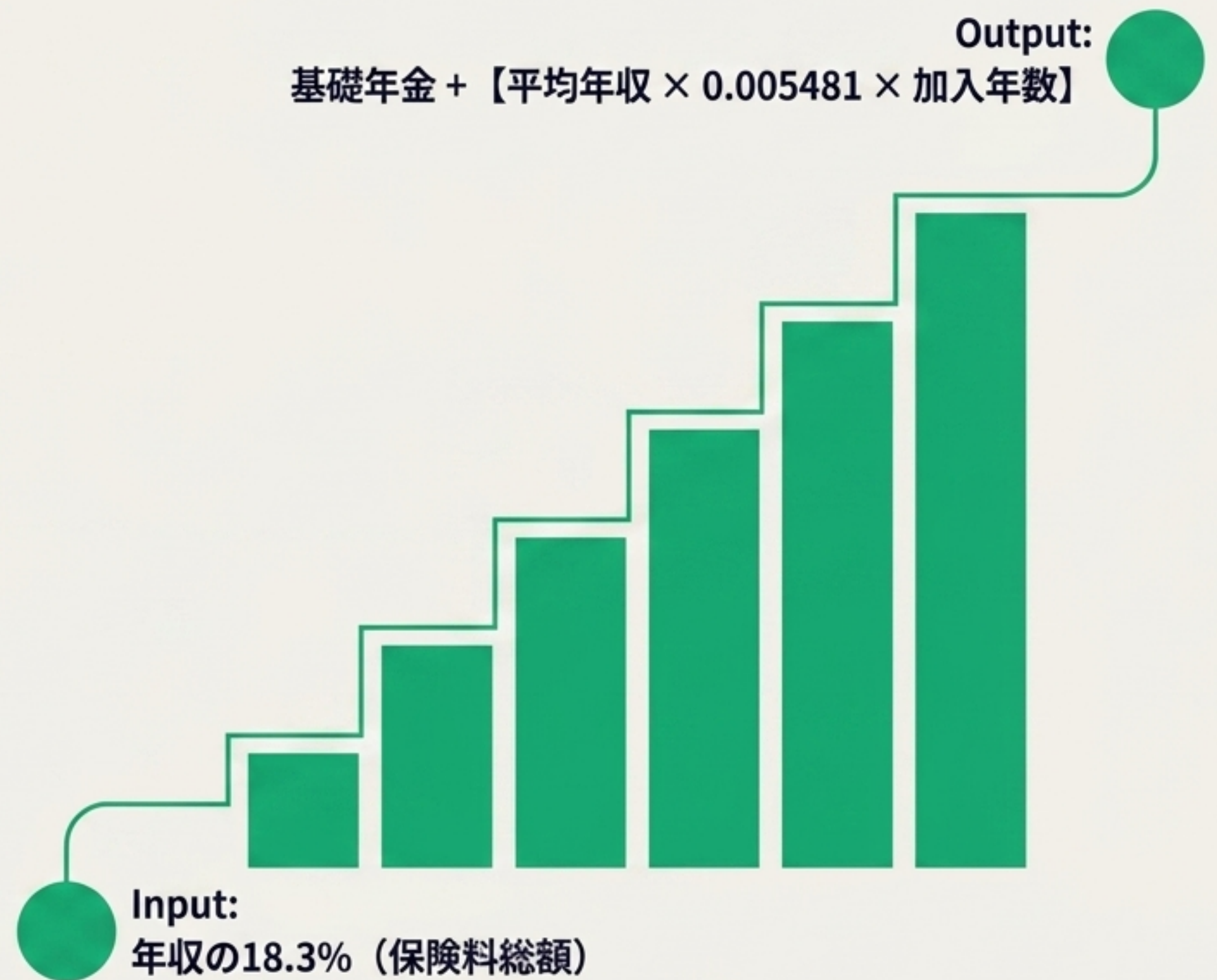
所得にかかわらず、負担も給付も「定額」なのが最大の特徴です。自営業やフリーラ
自営業やフリーランスは、基本的にこの1階部分のみとなります。



※シミュレーター上の概算値

2階部分：現役時代に比例する上乗せ「厚生年金」

会社員や公務員が加入する部分。収入が多いほど保険料が上がり、それに伴い将来の受給額も増える仕組みです。

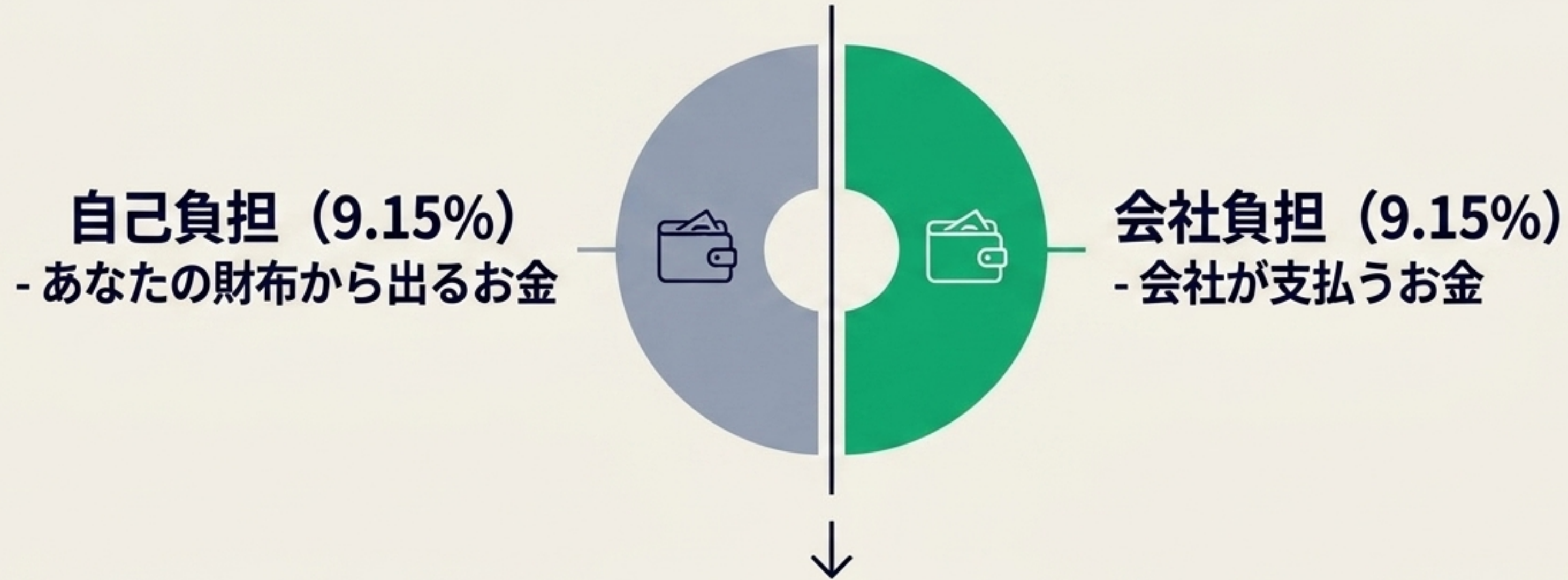


※シミュレーター簡略式

働き方による制度の違い（早見表）

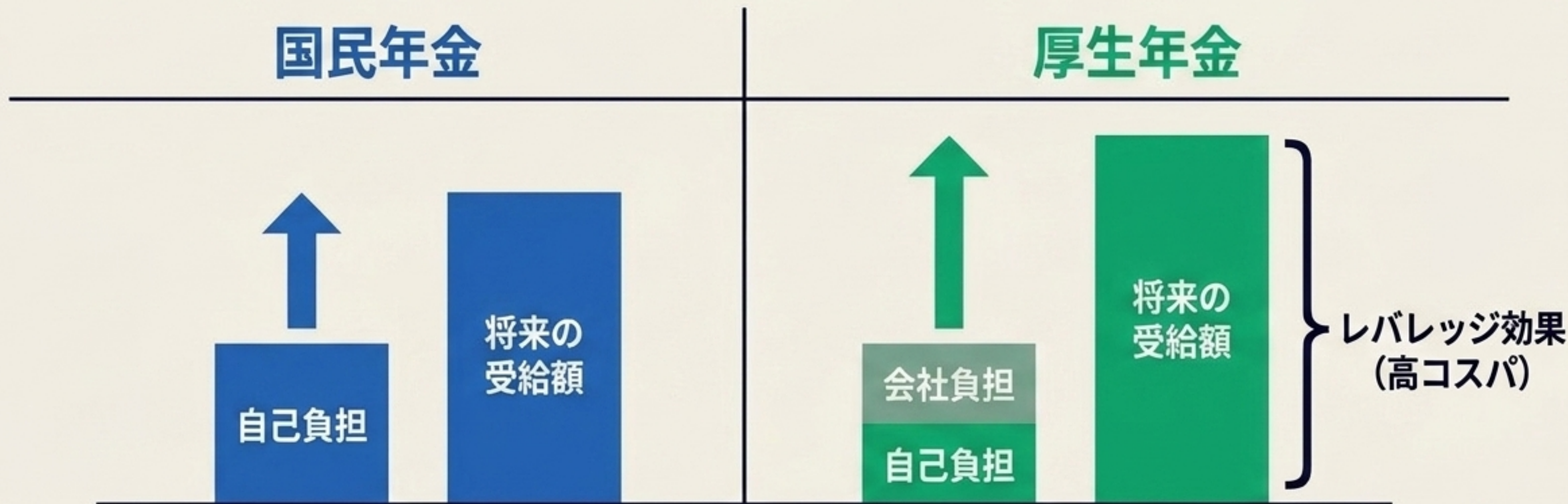
	自営業・フリーランス	会社員・公務員
構造 	国民年金（1階のみ） 	厚生年金（1階＋2階） 
保険料 	所得に関わらず「定額」 	年収の18.3%（労使折半） 
将来の受給 	基礎年金のみ 	基礎年金＋報酬比例部分の上乗せ 

厚生年金の最大の特徴は「労使折半」にある。



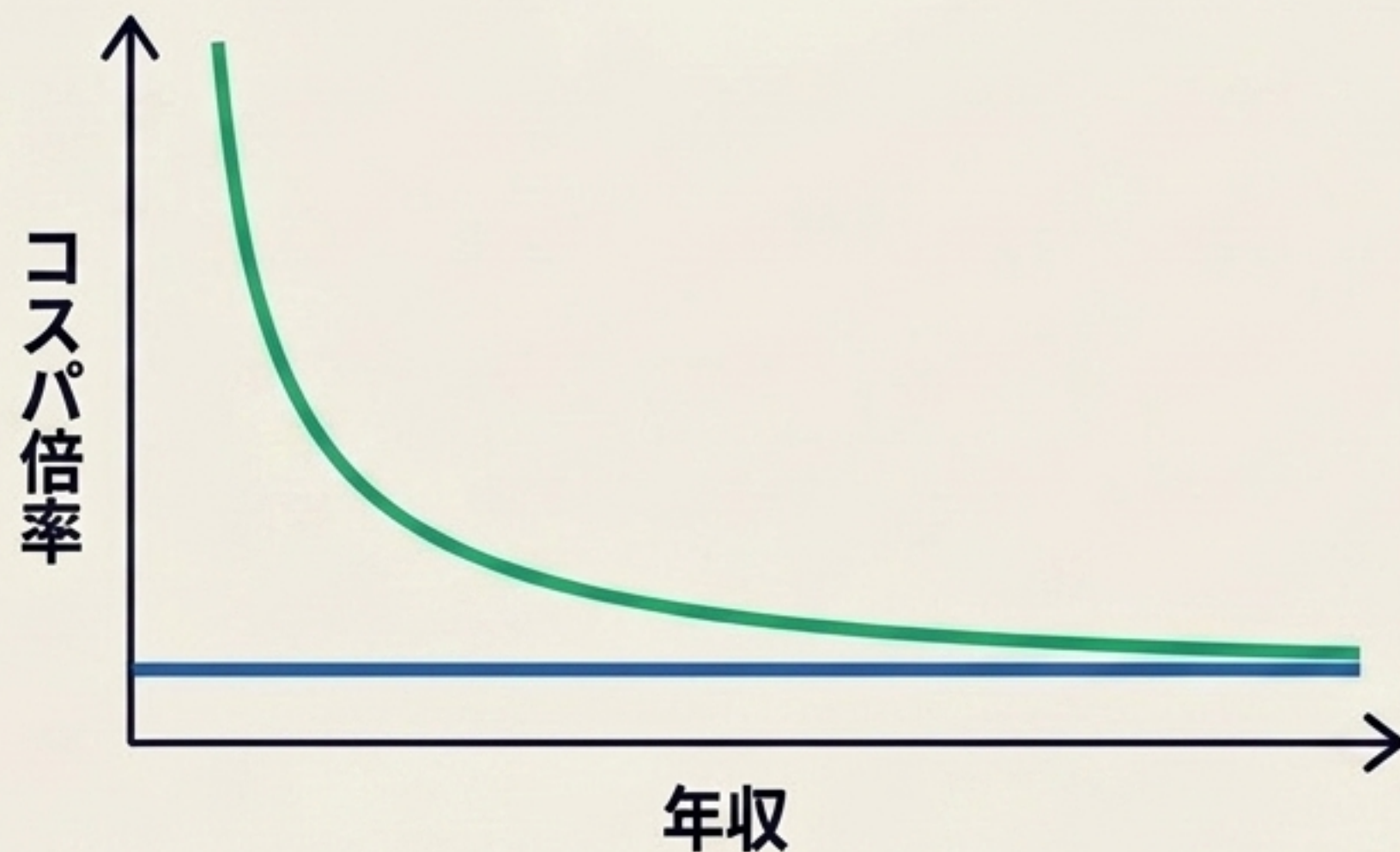
厚生年金の保険料（年収の18.3%）は一見高く見えますが、その半分は会社が負担します。
しかし、将来の年金額は「18.3%全額」をベースに計算されるという強力なレバレッジが働いています。

自己負担額に対する「コスパ倍率」の差。



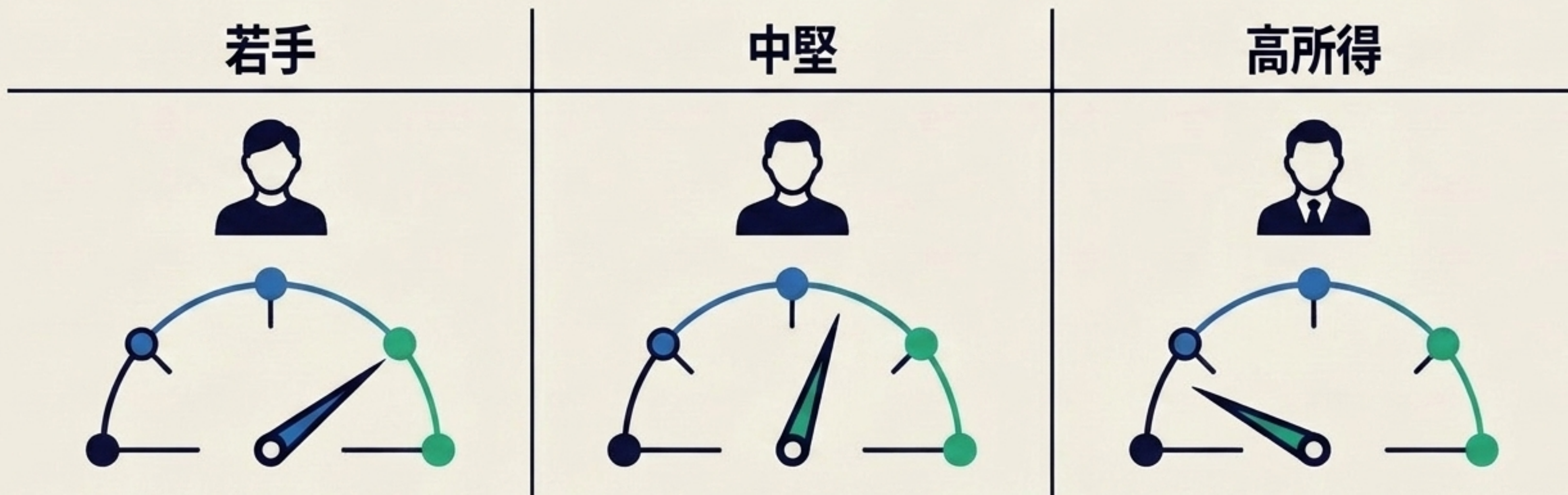
会社が半分負担してくれるため、自己負担1円あたりが生み出す生涯受給額（コスパ倍率）は、多くの場合、国民年金（全額自己負担）よりも厚生年金の方が高くなる傾向があります。

しかし、厚生年金は「常に」圧倒的にお得なのか？



必ずしもそうではありません。年収が一定水準を超えると、定額である基礎年金（1階部分）の相対的な影響力が小さくなります。そのため、会社負担の恩恵があっても、高所得層になるほどコスパ倍率の差は縮小していくというパラドックスが存在します。

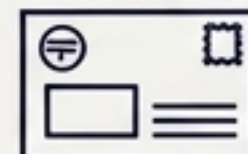
結論は、あなたの「現在地」によって変わる。



若手、中堅、高所得。プリセットを切り替えるだけで、有利・不利のバランスは大きく動きます。本シミュレーターは「どちらが良いか」をジャッジしません。制度の特性を客観的に可視化するだけです。

シミュレーターご利用にあたって（モデルの前提）

ねんきん定期便



- ✓ 当ダッシュボードは教育・研究目的の簡略化モデル（AI生成補助含む）です。
- ✓ 20歳から引退まで継続勤務したと仮定し、免除や転職等の途中経過は未考慮です。
- ✓ 実際の配偶者加給や在職老齢年金による支給停止などは考慮していません。
- ⚠ 将来の受給額を保証するものではありません。正確な個別見込額は「ねんきん定期便」や年金事務所にてご確認ください。

あなた自身の目で、確かめてください。

無料・広告なしで公開中。

あなたの条件を入力し、未来の数字を今すぐシミュレーション。

